

寒川町長 様

寒川町総合計画審議会
会長 菊地 端夫

寒川町総合計画審議会から寒川町への提案について

令和5年11月13日（月）に開催した第2回寒川町総合計画審議会において、「地域で子育てするコミュニティの活性化」をテーマに委員同士で議論いたしました。その内容を次のとおり取りまとめましたので、寒川町総合計画審議会から寒川町への提案として提出させていただきます。

今回の提案においては、各分野において様々な経験や知識を有する審議会委員から出た意見を取りまとめているので、行政運営への反映をご検討いただきますようお願い申し上げます。

なお、事務局より行政の現状や課題を説明していただいたうえで議論を行いました。改めて寒川町の現状や課題を踏まえて本提案の反映の是非をご検討いただけますと幸いです。

①集える場所の創出

「課題」

- ・サークルや子育て支援の場所等にピンポイントで参加するのはハードルが高い（時間的制約、移動手段の制約等）。
- ・取り組みや課題毎の施設ではなく、何らかのついでに相談ができるような場所が必要ではないか。

「課題」を踏まえた対策（案）

- ・生活に身近なところで相談できるような場所や体制づくり
- ・そこに行けばすべての用事が済むように様々なサービスの集約
- ・にぎわい交流創出ゾーンのように、その場に行けば何かあるという場が必要。
- ・子育て支援関係機関の集約

②既存コミュニティの強化

「課題」

- ・寒川に移住してきた人は近くにフォローしてくれる人がおらず孤立している可能性。
- ・地域で挨拶をしても挨拶をしない大人や子どもが見受けられる。
- ・子どもたちを見守っているというような目に見える安心感を親に与えることが必要。
- ・自治会やPTAなどは、面倒くさいのは嫌でいいところ取りだけしたいという方が多い。
- ・自治会への加入をアップすることが必要。

「課題」を踏まえた対策（案）

- ・自治会の魅力を向上させて、メリットを伝えていく。
- ・自治会に若い子育て世代を取り組むような要素を加える。
- ・自治会におやじの会のようなものができると男性の参画や趣味やコミュニティの共有拡大も可能か。
- ・今あるコミュニティ、団体をつないでいく。

③情報発信・共有のアプローチ

「課題」

- ・必要な情報が十分に伝わっていない。
- ・サービスや支援体制などをもっと町民も理解し、知ることが大切。
- ・子育ての問題を抱える前に事前に防ぐ必要がある。
- ・子どもたちを地域で見守っているというような目に見える安心感を親に与えることが必要。

「課題」を踏まえた対策（案）

- ・対象者が情報にアクセスするのを待つだけでなく、積極的に情報を渡すプッシュ型通知の必要性。
- ・男性の研修を十分に行う。
- ・出産前に子育ての情報や相談場所、居場所などを知ることができるようにする。

【参考】委員意見の記録

議論の中で次のとおり意見がありました。今後検討を進める際の参考にしてください。

① 集える場所の創出について

- ・集える場所がやはり必要。
- ・にぎわい交流創出ゾーンのように、その場に行けば何かあるという場をつくるのが理想。
- ・他県では、保育、医療、図書館、行政など総合的に入っている施設があり、そのような場所で地域の子育てするコミュニティが活性化している事例がある。
- ・実際に成功している事例を参考に寒川で何ができるか議論をしながら進めていったらどうか。
- ・買い物するついでに子どもの相談もできるようないろいろなサービスが集積された場があるとよい。
- ・サークルや子育て支援の場等へのピンポイントの参加は、あまり密な関係を望んでいない方もおり、時間的制約や移動手段等の問題により参加が難しい場合もある。
- ・直接的なアプローチは難しいので、間接的なアプローチが必要。
- ・子育てという直接的なものだけでなく、横の選択肢の中から間接的につながっていくことも必要。
- ・まんべんなく広く子育てを知ってもらって中核に進んでいければよい。
- ・共働き世帯にとって学級閉鎖などの際に安心して子どもを見てもらえるところがあるとよい。

- ・保育園とか幼稚園のOBの方で公民館などの部屋を使って子どもを見ていただけたところをつくとよい。
- ・子育て支援センター、子育て系の部署、保健センターなどの施設や相談体制など子育て機能を町の中央に集約する。
- ・産後ケア、子ども食堂、赤ちゃん食堂などを行政のサービスの中で子育て支援として拡大できたらよい。
- ・買い物するついでに子どもの相談もできるようないろいろなサービスが集積された場があるとよい。
- ・寒川の子育て世帯の生活の実態をよく理解したうえで検討することが必要。

② 既存コミュニティの強化について

- ・寒川に移住してきた人は近くにフォローしてくれる人がおらず孤立している可能性がある。
- ・昔は、隣近所のおじさんの顔が分かって、みそ、しょうゆなど貸し借りするみたいなコミュニティがあった。
- ・挨拶をしても親から知らない人に声をかけられても知らん顔するように言われて挨拶しない子どもが見受けられる。
- ・子どもたちを見守っているというような目に見える安心感を親に与えることが必要。
- ・コミュニティをもっときちっとつくっていかなければいけない。
- ・既存のコミュニティやボランティア団体をつないでいくことが近道。
- ・自治会とかPTAは、面倒くさいのは嫌でいいとこ取りだけしたいという方が多い。
- ・一般の住民の方々は、すべて公助だという方が非常に多い。
- ・何事においてもまずは自助努力をなささいということを行政も含めて自治会等ももっと強調しなければいけない。
- ・つながりを持たないことのデメリットをもっと強調していく必要がある。
- ・自治会への加入をアップすることが必要。
- ・自治会に加入するよう行政も支援していただきたい。
- ・自治会の魅力を向上させて、メリットを伝えていく必要がある。
- ・おやじの会のようなものができると男性の参画や趣味やコミュニティの共有拡大も臨める。
- ・自治会におやじの会やママのコミュニティなどの新たなコミュニティをつくれれば割と幅広い年齢層を取り込むことができる。
- ・自治会に子育ての要素が加わると正しく若手への継承も行われる。
- ・自治会の中の新たなコミュニティのメリットを周知して加入促進も図る。
- ・コロナの影響で社会の雰囲気が変わってしまった。どう乗り越えていくかが今後の課題。
- ・若い人がなぜ強いつながりを持ちたくないのかを深く解析していかないといけない。

③ 情報発信・共有のアプローチについて

- ・子育ての問題を抱える前に事前に防ぐ必要がある。
- ・出産前に子育ての情報や相談場所、居場所などを知ることで事前に防げる可能性がある。

- ・情報が各家庭に十分に伝わっていない。
- ・もっと町民の方々が理解、あるいは知ることが大切。
- ・子育ての大事な時期をお父さん方が子育てに専念できるように、男性の研修を十分にやらないといけない。
- ・定期健診等の際に積極的に情報や研修等の案内を渡していくことが大事。
- ・情報を伝える側では伝わっていると思っていることも、受け手側には伝わっていないというような情報の格差というのが、お互いの関わりの機会を失わせてしまうというのがよくある。

【参考】 委員議論の際に参考にした資料

令和5年度第2回寒川町総合計画審議会資料（11月13日審議会資料）